

第2節

各国との防衛協力・交流の推進

1 各国との防衛協力・交流の意義

わが国にとって、アジア太平洋地域の平和と安定を確保するためには、日米同盟を基軸としつつ、この地域における多国間および二国間の対話・交流・協力の枠組を多層的に強化していくことが重要である。

中でも、二国間の枠組については、1節1「安全保障協力・対話、防衛協力・交流の意義と変遷」でも述べたように、親善目的のみならず実務的な性格を有する交流や、対話のみならず行動をとる交流の重要性が高まり、

相手国によっては、防衛交流の内容が、単なる交流から防衛協力をを行う段階へと発展・深化してきている。

こうした状況を踏まえ、防衛省・自衛隊は、国際社会における多層的な安全保障協力を推進するため、各国・地域の特性を踏まえ、戦略的に防衛協力・交流を実施している。

(図表Ⅲ-3-2-1 参照)

参照 資料58 (P516)

図表Ⅲ-3-2-1 各国との防衛協力・交流の実績(過去3年間)

		政務三役の会談など	次官級会談	防衛当局間協議	外務・防衛当局間協議	安保共同宣言・覚書など
アジア	韓国 	08. 5 シンガポール (大臣) 09. 4 東京 (大臣) 09. 5 シンガポール (大臣) (注) 09.12 ソウル (政務官) 10. 6 シンガポール (大臣) 10. 6 シンガポール (大臣) (注) 10. 7 ソウル (政務官) 11. 1 ソウル (大臣) 11. 6 シンガポール (大臣) (注)日米韓防衛相会談	09. 6 ソウル 10.12 東京	08. 7 東京 09.10 ソウル 10. 7 東京	08.11 福岡 09.12 済州	09. 4 意図表明 文書署名
	中国 	09. 3 北京 (大臣) 09.11 東京 (大臣) 10.10 ハノイ (大臣) (注) 11. 6 シンガポール (大臣) (注)懇談として実施	08. 3 北京 (日中防衛当局次官級協議)		09. 3 東京 11. 1 北京	
	ロシア 	11. 6 シンガポール (大臣)		08. 5 東京 10. 7 モスクワ	08. 4 東京 10. 7 モスクワ	99. 8 覚書署名 06. 1 覚書改定
	モンゴル 	09. 5 シンガポール (大臣) 10.11 東京 (大臣)				

		政務三役の会談など	次官級会談	防衛 当局間協議	外務・防衛 当局間協議	安保共同宣言 ・覚書など
ア ジ ア	シンガポール 	08. 5 シンガポール (大臣) 09. 2 ミュンヘン (大臣) 09. 5 シンガポール (大臣) 09.12 東京 (大臣) 10. 6 シンガポール (大臣) 10.10 ハノイ (大臣) 11. 6 シンガポール (大臣)	08. 4 東京 09.11 東京 11. 1 シンガポ ール	08. 9 東京 09. 9 シンガポ ール 10.10 東京		09.12 覚書署名
	タイ 	08. 5 バンコク (政務官) 09.12 バンコク (副大臣) 10.10 ハノイ (大臣) 11. 1 バンコク (政務官)	11. 1 バンコク	09. 9 東京 10. 9 バンコク	09. 9 東京 10. 9 バンコク	
	マレーシア 	11. 1 クアラルンブール (政務官)	08. 1 クアラル ンブール 10. 1 クアラル ンブール 10. 3 東京	過去3年間開催 実績なし (参考) 05. 2 クアラル ンブール		
	インドネシア 	10.10 ハノイ (大臣) 11. 1 ジャカルタ (政務官) 11. 1 東京 (大臣) 11. 6 シンガポール (大臣)	09. 3 東京 10. 1 ジャカル タ 10. 3 東京	10. 9 ジャカル タ		
	フィリピン 	09. 5 マニラ (政務官) 10.10 ハノイ (副大臣) 11. 1 マニラ (政務官)	08.10 東京 09. 3 東京 10. 3 東京	10. 8 東京	10. 8 東京	
	ベトナム 	09. 5 シンガポール (大臣) 09. 5 ハノイ (政務官) 10.10 ハノイ (大臣) 11. 6 シンガポール (大臣)	10. 1 ハノイ 10. 3 東京	08.11 東京 10. 4 ハノイ	08.11 東京 10. 4 ハノイ	
	カンボジア 	08. 3 東京 (大臣) 10. 5 プノンベン (副大臣) 10.10 ハノイ (副大臣)	09. 3 東京 10. 3 東京	10. 6 プノンベ ン	10. 6 プノンベ ン	
	東ティモール 	09. 2 東京 (副大臣) 09. 3 東京 (大臣) 10. 5 ディリ (副大臣) 10.10 東京 (副大臣)				
	インド 	09.11 東京 (大臣) 10. 4 デリー (大臣)	10. 7 デリー (事務次官・国防 次官級防衛政策 対話、次官級「2 +2」対話)	08. 2 東京 09. 2 デリー 10. 4 東京 11. 5 デリー	08. 2 東京 09. 2 デリー 10. 4 東京 11. 5 デリー	08.10 安保共同 宣言発表
	パキスタン 			09. 2 イスラマ バード 10. 5 東京	09. 2 イスラマ バード 10. 5 東京	

		政務三役の会談など	次官級会談	防衛 当局間協議	外務・防衛 当局間協議	安保共同宣言 ・覚書など
大洋州	ニューージーランド 	08. 5 東京 (大臣) 10.10 東京 (大臣)		08.12 ウェリントン 09.10 東京 10.12 ウェリントン		
	オーストラリア 	08. 5 シンガポール (大臣) 08.12 東京 (大臣) 08.12 東京 (大臣)、 (閣僚級2+2) 09. 5 シンガポール (大臣) 10. 5 東京 (大臣)、 (閣僚級2+2) 10.10 ハノイ (大臣) 11. 6 シンガポール (大臣)		08. 9 東京 09.10 キャンベ ラ 10.10 東京	08. 2 キャンベ ラ 10. 3 東京	03. 9 覚書署名 07. 3 安保共同 宣言発表 08.12 覚書改定
北米	カナダ 	08. 5 シンガポール (大臣)	09. 6 東京	09. 5 オタワ	08.11 オタワ 10. 3 東京 11. 4 キャンベ ラ	10.11 政治、平 和安保共 同宣言発 表
欧州	英国 	08. 5 シンガポール (大臣) 09. 2 ミュンヘン (大臣) 09. 5 シンガポール (大臣) 09.10 東京 (副大臣) 09.10 東京 (政務官) 10. 6 シンガポール (大臣) 10. 9 ロンドン (政務官)	11. 6 シンガポ ール	08.10 ロンドン 09.11 東京 11. 2 ロンドン	09.11 東京 11. 2 ロンドン	04. 1 覚書署名
	フランス 	08. 5 シンガポール (大臣) 10. 5 パリ (政務官)		08. 4 東京 09. 6 パリ 10.10 東京	08. 4 東京 09. 6 パリ 10.10 東京	
	ドイツ 	09. 2 ミュンヘン (大臣) 10. 9 ベルリン (政務官)		08. 7 ベルリン 10.10 東京	08. 7 ベルリン 10. 6 東京	
	イタリア 	10. 2 東京 (副大臣)				
	NATO 	10. 5 ブリュッセル (政務官)			08. 3 ブリュッ セル 09. 5 東京 10. 7 東京	

2 日豪防衛協力・交流

オーストラリアは、わが国にとってアジア太平洋地域の重要なパートナーであり、同じ米国の同盟国として、民主主義、法の支配、人権の尊重、資本主義経済といった基本的な価値観のみならず、安全保障分野において戦略的利益や関心を共有している。特に、近年、グローバルな課題については、各国が一致して取り組むべきとの認識が国際社会に浸透してきていることから、アジア太平洋地域における責任ある国として、わが国とオーストラリアは、災害救援や人道支援活動などの非伝統的安全保障分野を中心とした相互協力・連携を強めている。

日豪二国間の防衛協力・交流は、07（同19）年3月、日豪両首脳の間で、米国以外では初めての安全保障分野の共同宣言である「安全保障協力に関する日豪共同宣言」¹を公表して以来、着実に進展しており、現在ではより実際の・具体的な協力の段階に移行している。

10（同22）年5月、第3回日豪外務・防衛閣僚協議（「2+2」）において、物品役務相互提供協定（ACSA）²およびACSAに基づく手続取決めの署名が行われた。署名式と同日に行われた日豪「2+2」および日豪防衛相会談においては、国連平和維持活動（PKO）や災害救援活動などの現場で活動する豪軍との間で協力が一層促進されることへの期待が表明されるとともに、今後の両国間の協力分野の拡大の検討が言及された。

日豪ACSAの締結によりPKOや国際緊急援助活動などを自衛隊と豪軍が行う際、現場において水・食料・燃料・輸送などの物品や役務を、確立された統一的な手続により相互に融通できるようになり、日豪間の戦略的パートナーシップが一層円滑・強固なものとなる。また、このような日豪間の協力の円滑化・強化は、アジア太平洋地域の平和と繁栄に貢献するとともに、協力を通じた

域内秩序の形成にも資することが期待される。

これまで、わが国がACSAを締結したのは米国のみであった。日米安全保障体制を前提とした米国以外の国との初めてのACSAの締結は、今後わが国が行う防衛協力・交流にとって大きな意味を持つものと考えられる。

10（同22）年10月11日、拡大ASEAN国防相会議（ADMMプラス）に接続して行われた日豪防衛相会談においては、北澤防衛大臣より、今後の防衛協力は、共同訓練、人道支援・災害救援活動などの場面でACSAを活用するなど、具体的な実施段階に移行させていくことが重要である旨指摘し、双方の認識が一致した。ACSAが発効するためには国会の承認が必要であり、またその実施のための国内法を早急に整備する必要がある。

近年では、米国を含めた日米豪3か国の協力も増えている。日豪は、先に述べたとおり、ともに米国の同盟国であると同時に、基本的な価値観を共有しており、アジア太平洋地域および国際社会が直面するさまざまな課題の解決のため、緊密に連携・協力してきている。このような連携・協力を効果的、効率的なものとするためには、地域の平和と安定のために不可欠な存在である米国を含めた日米豪3か国による協力を積極的に推進することも重要である。

このような認識のもと、07（同19）年6月には、第6回IISS（英国国際戦略研究所）アジア安全保障会議（シャングリラ会合）³の機会をとらえ、初めてとなる日米豪防衛相会談が行われ、3国間の協力を推進していくことで一致したほか、10（同22）年5月の日豪外務・防衛閣僚協議においても、日米豪3か国の枠組で、この地域の安全保障戦略に関する協議・協力を深めることで一致した。

事務レベルにおいても、07（同19）年4月、08（同

1 <<http://www.mod.go.jp/j/press/youjin/2007/06/06d.html>>参照。

2 正式名称：日本国の自衛隊とオーストラリア国防軍との間における物品又は役務の相互の提供に関する日本国政府とオーストラリア政府との間の協定。

3 アジア太平洋地域の国防大臣クラスを集めて防衛問題や地域の防衛協力についての議論を行うことを目的として開催される多国間会議であり、民間研究機関である英国の国際戦略研究所の主催により始まった。2002年の第1回から毎年シンガポールで開催され、会場のホテル名からシャングリラ会合（Shangri-La Dialogue）と通称される。Ⅲ部3章1節7および<<http://www.mod.go.jp/j/approach/exchange/dialogue/iiss.html>>参照。

20)年4月、09(同21)年11月、11(同23)年1月の4回にわたって、3か国の局長級会合である日米豪安全保障・防衛協力会合(SDCF)が行われ、3か国間の防衛協力Security and Defense Cooperation Forumの協調的推進などについて協議を行ったほか、10(同22)年6月には、海自、米海軍および豪空軍との間で、海自P-3Cなどによる3度目となる日米豪3か国による訓練を実施した。さらに同月には、グアムにおいて日米豪空軍種ハイレベル協議が開催され、3か国の空軍種による防衛協力などに関して協議を行い、これを受け、11(同23)年1月には、空自および米空軍との間で行われたグアムにおける日米共同訓練「コープ・ノース・グアム」に豪空軍から初めてオブザーバーを派遣した。

これらの協議や協力を通じて情勢認識を3か国で共有し、政策協調を図るとともに、ACSAが発効した後は、災害救援活動や共同訓練などの運用面における3か国の協力をさらに積極的に進めていくなど、3か国の協力関係を一層発展・深化していくことが重要である。

また、11(同23)年3月の東日本大震災の際に、豪空軍のC-17輸送機による輸送業務が、自衛隊および在日米軍との緊密な連携のもとに行われた。豪空軍はC-17を最大で3機日本へ派遣し、1機が日本国内で陸自第15旅団(那覇)や救援物資の輸送支援を、2機が原発対応のため高圧放水ポンプの輸送を実施した。北澤防衛大臣はスミス国防大臣との電話会談において、豪政府から救助隊員75名および救助犬2匹が豪空軍C-17輸送機によって派遣されたこと、C-17輸送機が国内においてさまざまな輸送業務を行ったことに対して謝辞を伝えた。

参照 特集(P22)

(図表Ⅲ-3-2-2参照)



折木統合幕僚長とアンガス・ヒューストン豪国防軍司令官

図表Ⅲ-3-2-2 最近の日豪防衛協力・交流の主要な実績

首脳、防衛首脳などのハイレベルの会談など	07. 3	日豪首脳会談（東京） ☆安全保障協力に関する日豪共同宣言の発表
	07. 6	第1回日豪防衛・外務閣僚協議（東京）
	07. 6	日豪防衛相会談（東京）
	07. 9	日豪首脳会談（キャンベラ） ☆安全保障協力に関する日豪共同宣言を実施するための行動計画の策定 ・日豪防衛交流覚書改定作業の方向性などについて記述
	08.12	第2回日豪防衛・外務閣僚協議（東京） ☆共同ステートメント発出
	08.12	日豪防衛相会談（東京） ☆日豪防衛交流覚書の改定 ①国際平和協力活動での協力の推進、②戦略対話の実施や訓練の拡充など平素からの協力・連携の強化、③日米豪3か国間・多国間協力の強化
	09. 5	日豪防衛相会談（シンガポール（第8回シャングリラ会合）） ☆北朝鮮の核実験について両国が一体となって対応していくことで一致 ☆ロジスティクス協力に関する検討の加速、共同訓練の拡充、日米豪3か国の協力の強化で一致
	09.12	日豪首脳会談（東京） ☆安全保障協力に関する日豪共同宣言を実施するための行動計画の改定 ・日豪ロジスティクス協力についての国際約束に向けた取組で一致
	10. 5	第3回日豪外務・防衛閣僚協議（東京） ☆①日豪安全保障協力（ACSA署名の歓迎、日豪秘密情報保護協定の交渉加速化など）、②日米豪3か国協力、③韓国哨戒艦沈没事件、④核軍縮不拡散、⑤地域的枠組み、⑥地域情勢について議論
	10. 5	日豪防衛相会談（東京） ☆①両国の防衛政策、②日豪防衛協力、③地域の安全保障情勢について意見交換を実施
	10.10	日豪防衛相会談（ハノイ（ADMMプラス）） ☆今後の防衛協力は、共同訓練、人道支援・災害救援活動などの場面でACSAを活用するなど、具体的な実施段階に移行させていくことが重要との認識で双方が一致
11. 6	日豪防衛相会談（シンガポール（第10回シャングリラ会合）） ☆①将来の日豪安保・防衛協力に関するビジョン、②日豪間の防災・災害救援協定、③日米豪3か国協力強化などについて、次回「2+2」において議論を深めることで一致	
防衛当局者間の定期協議	07. 2	海幕長訪豪
	07. 3	豪陸軍本部長訪日
	07. 8	陸幕長訪豪（第5回PACC）
	08. 4	豪海軍本部長訪日
	08. 5	空幕長訪豪
	09. 8	豪陸軍副本部長訪日（第6回PACC）
	10. 4	豪空軍本部長訪日
	10. 9	海幕長訪豪
	11. 2	統幕長訪豪
	11. 2	空幕長訪豪
11. 6	豪空軍本部長訪日	
防衛当局者間の定期協議	08. 2	第10回日豪外務・防衛当局間協議
	08. 9	第13回日豪防衛当局間協議
	09.10	第14回日豪防衛当局間協議
	10. 3	第11回日豪外務・防衛当局間協議
	10.10	第15回日豪防衛当局間協議
	11. 4	第12回日豪外務・防衛当局間協議
部隊間の交流など	07.10	空自多用途支援機（U-4）のオーストラリアへの派遣
	08. 7～8	オーストラリア主催多国間共同海上訓練「カカドゥ08」への参加
	08. 9	海自哨戒機（P-3C）のオーストラリアへの派遣
	09. 9	日豪共同訓練の実施
	10. 5	
10. 8		

	10. 6 10. 8 11. 5	空自多用途支援機 (U-4) のグアムへの派遣 (日米豪3か国ハイレベル協議における豪州空軍部隊との交流) 豪主催多国間海上共同訓練「カカドゥ 10」への参加 豪陸軍訓練にオブザーバー派遣	
日米豪3か国の協力	07. 4 08. 4 09.11 11. 1	日米豪安全保障・防衛協力会合 (SDCF)	
	07. 6 07.10		日米豪防衛相会談 (シンガポール (第6回シャングリラ会合)) 日米豪3か国間訓練
	09. 9 10. 6		
	07. 5 08. 2	太平洋長距離航空輸送セミナー (PGAMS)	

3 日韓防衛協力・交流

韓国は、歴史的にも、経済・文化などの各分野においてわが国と最も密接な関係を有してきた隣国の一つであり、また、地政学的な観点からもわが国の安全保障にとってきわめて重要な国である。さらに、わが国と同様、民主主義、法の支配、人権の尊重、資本主義経済といった基本的な価値観を共有するとともに、米国の同盟国として米軍の駐留を認めているなど、その戦略的利害関係の多くが共通している。このため、両国が、経済面だけでなく、安全保障面においても緊密に連携していくことは、アジア太平洋地域における平和と安定にとって大きな意義がある。

これまで日韓の防衛当局は、94 (平成6) 年以降、両国防衛相がほぼ毎年交互に訪問し、局長・審議官級の防衛実務者対話および外務当局を含めた安全保障対話を実

施するなど、相互理解・相互信頼を増進させている。10 (同22) 年12月には李庸傑^{イ・ヨンゴル}国防次官が訪日し、次官会談を実施したほか、11 (同23) 年1月、北澤防衛大臣が、^{キム・グァンジン}金寛鎮国防部長官と防衛相会談を実施した。

他方、日韓両国が直面している安全保障上の課題は、北朝鮮の核・ミサイル問題のみならず、テロ対策や、PKO、大規模自然災害への対応、海賊対処、海上安全保障など、広範にわたる複雑なものとなってきている。このため、こうした安全保障上の課題に両国が効果的に対応していくためには、相互理解・信頼醸成の増進のための交流にとどまらず、より広範かつ具体的な防衛協力を行っていくことが重要である。

このような認識のもと、09 (同21) 年4月の日韓防衛

相会談の際、「日本国防衛省と大韓民国国防部との防衛交流に関する意図表明文書」¹に署名し、これまでの伝統ある日韓防衛交流の進展を図るとともに、さらなる発展に向け新たな協力分野を追求すべく努力するとした。11（同23）年1月の防衛相会談においては、哨戒艦沈没事件、延坪島砲撃事件をはじめとする地域の安全保障情勢^{ヨンピョンド}について意見交換を行うとともに、日韓の協力を未来志向的に発展させ両国の協力・交流を拡大・深化させていくとの認識のもと、PKO活動、人道支援および災害救援活動、搜索救難訓練などの分野において、水、食料、燃料などを相互に支援できるよう、ACSAについて意見交換を進めていくことで一致した。さらに、両大臣は、日韓防衛協力・交流の推進のため、情報共有が重要であるという認識のもと、今後、情報保護協定の内容について両国の防衛当局間で意見交換を進めていくことで一致した。さらに、11（同23）年6月、IISSアジア安全保障会議に際して行われた日韓防衛相会談において、ACSAや情報保護協定の早期締結の重要性を認識し、作業を加速していくことで一致した。

11（同23）年3月の東日本大震災の際には、北澤防衛大臣は金寛鎮国防部長官と電話会談を行い、韓国政府の救助隊員5名および救助犬2匹の派遣に対して謝辞を伝えた。会談後、韓国空軍C-130輸送機は日韓間で第2陣となる救助隊員102名や救援物資の輸送を行った。

参照 特集（P22）



日韓防衛相会談（ソウル）に際し、儀じょうを受ける北澤防衛大臣

また、日韓両国は、アジア太平洋地域の平和と安定にとって不可欠の存在である米国と同盟関係にあることから、日米豪3か国協力と同様に、近年では、日米韓3か国での協力が進展している。10（同22）年6月には、第9回IISSアジア安全保障会議において09（同21）年に引き続き2回目となる日米韓防衛相会談を行い、情報共有や拡散に対する安全保障構想（PSI）^{Proliferation Security Initiative}などの分野での3か国による協力の検討や人道支援・災害救援などの分野において協力を推進していくことで一致した。

また、10（同22）年7月、米韓両国が実施した合同演習「インビンシブル・スピリット」^{Invincible Spirit}に米韓からの招へいを受けてわが国から海上自衛官4名をオブザーバーとして派遣したことに続き、同年12月に実施した日米共同統合演習「キーン・ソード」には、韓国軍がオブザーバーを派遣している。今回初めて行われた米国との訓練への相互オブザーバー派遣は、日米韓連携をさらに強化することで、地域の平和と安定に資するものである。

わが国としては、今後とも、防衛や安全保障の分野においても、韓国との未来志向の協力関係を発展させていくことが重要であると考えている。

（図表Ⅲ-3-2-3参照）



日韓防衛次官会談（東京）

¹ <<http://www.mod.go.jp/m/update/youjin/2009/04/23b.html>>参照。

図表Ⅲ-3-2-3 最近の日韓防衛協力・交流の主要な実績

首脳、防衛首脳などのハイレベルの会談など	09. 4	日韓防衛相会談（東京） ☆北朝鮮問題、日韓防衛交流などについて意見交換
	09.12	☆「日韓防衛交流に関する意図表明文書」に署名 長島防衛大臣政務官訪韓（ソウル） ☆国防部長官、国防次官、統一部長官などと会談
防衛当局者間の定期協議	10. 6	日韓防衛相会談（シンガポール（第9回シャングリラ会合））
	10. 7	長島防衛大臣政務官訪韓（ソウル） ☆国防次官、大統領府外交安保首席秘書官などと会談
	11. 1	日韓防衛相会談（ソウル） ☆北朝鮮問題、日韓防衛協力・交流などについて意見交換
	11. 6	日韓防衛相会談（シンガポール（第10回シャングリラ会合）） ☆北朝鮮問題、日韓防衛協力・交流などについて意見交換
	08.10	海幕長訪韓
	09. 6	日韓防衛次官会談（ソウル）
	09. 7	空幕長訪韓
	09. 8	韓国陸軍参謀総長訪日（第6回PACC）
	09.10	空幕長訪韓
	09.11	陸幕長訪韓
部隊間の交流など	10. 2	統幕長訪韓
	10. 4	海幕長訪韓
	10.12	日韓防衛次官会談（東京）
	09.10	第17回日韓防衛実務者対話（審議官レベル協議）
	09.10	第3回日韓防衛実務者対話作業部会（課長レベル協議）
	09.12	第9回日韓安保対話（外務／防衛当局者協議）
	10. 7	第18回日韓防衛実務者対話（審議官レベル協議）
	10.12	第4回日韓防衛実務者対話作業部会（課長レベル協議）
	08.10	日韓下士官交流（韓国）（陸）
	09. 5	舞鶴地方総監訪韓
	09. 5	西部航空方面隊司令官訪韓
	09. 7	日韓捜索救難共同訓練
	09. 9	日韓指揮幕僚課程学生交流（日本、韓国）（空）
	09.10	日韓初級幹部交流（日本）（陸）
	09.11	陸自幹部候補生韓国研修（韓国）
	09.11	日韓中級幹部交流（日本）（空）
	09.11	日韓下士官交流（日本）（陸）
	10. 1	西部方面総監訪韓
10. 3	日韓初級幹部交流（韓国）（陸）	
10. 4	日韓中級幹部交流（韓国）（空）	
10. 7	日韓中級幹部交流（日本）（空）	
10. 9	空軍南部戦闘司令官の訪日	
10. 9	日韓指揮幕僚課程学生交流（韓国）（空）	
10.10	日韓初級幹部交流（日本）（陸）	
10.10	第2作戦司令官の訪日（陸）	
10.12	日韓下士官交流（韓国）（陸）	
日米韓3か国の協力	09. 5	日米韓防衛相会談（シンガポール（第8回アジア安全保障会議）） ☆北朝鮮の核実験への対応および3か国の緊密な協力の重要性などについて意見交換
	09. 7	第13回日米韓防衛実務者協議
	10. 6	日米韓防衛相会談（シンガポール（第9回アジア安全保障会議）） ☆韓国哨戒艦沈没事件などについて意見交換
	10. 7	米韓合同軍事演習に海上自衛官をオブザーバー派遣
	10.12	日米共同統合演習に韓国よりオブザーバー参加

COLUMN

海上自衛隊と韓国海軍の交流

海上幕僚監部防衛部防衛課防衛調整官 1等海佐 ^{しも} ^{じゅんいち} 下 淳市
(第3代在韓国日本大使館防衛駐在官(海))

私はこれまで日韓防衛交流に直接かかわる機会が多く、色々な立場からその進展を見てきました。96(平成8)年からの3年間は防衛駐在官として勤務し、高官の相互訪問、幕僚の意見交換、艦艇相互訪問などの諸調整を通じて関係強化の一翼を担ってきました。

10(同22)年8月、韓国海軍の「世宗大王」^{セジョンデワン}にて発生した急患を韓国側の要請により海自が輸送しましたが、10月に首席幕僚として参加した遠洋練習航海での釜山寄港時、その韓国海軍唯一のイージス艦である「世宗大王」が練習艦隊のホストシップとして指定されました。こうした関係においても、韓国海軍との結びつきの強さを実感できました。

現職でも幕僚協議、共同訓練などの諸調整において日韓防衛交流に携わっています。近年、ハイレベルの信頼関係の強化も進んでおり、10(同22)年4月韓国海軍哨戒艦乗員の海軍葬へ海上幕僚長が参加し、今年の東日本大震災発災の僅か2日後には韓国海軍参謀総長から海上幕僚長に対して御見舞いと支援申し出の電

話を頂きました。こうした日々の勤務を通じて、日韓防衛交流の深化を感じています。

海上自衛隊と韓国海軍間の防衛交流の進展は、日韓の防衛協力関係の強化にも資するものであり、こうした交流を通じて地域の安全保障環境の一層の安定化に取り組むことが重要であると考えます。



練習艦「かしま」での昼食会の様子
(釜山入港時：筆者右手一番奥)

4 日印防衛協力・交流

インドは、わが国と中東、アフリカを結ぶシーレーン上のほぼ中央に位置し、ほとんどの貿易を海上輸送に依存するわが国にとって地政学的にきわめて重要な国である。また、インドとわが国は、民主主義、法の支配、人権の尊重、資本主義経済といった基本的な価値観を共有するとともに、アジアおよび世界の平和と安定、繁栄に共通の利益を有しており、戦略的グローバル・パートナーシップを構築している。このため、近年、特に、日印両国は安全保障分野での関係を強化している。

08(平成20)年10月にはシン印首相が訪日し、内閣総理大臣との間で、米国、豪州に次いで、安全保障分野の共同宣言である「日印間の安全保障協力に関する共同宣言」¹が署名された。安全保障分野での共同宣言は、米国、豪州に次いで3か国目である。防衛大臣間の会合、防衛政策対話を含む次官間の会合、局長級による防衛当局間協議、二国間および多国間の訓練を含む軍種間の交流などの枠組により、防衛当局間の協力を進めていくことを盛り込んだ同共同宣言は、今後の日印間の安全保障分野での協力の指針となるものである。

また、09(同21)年11月にはアントニー印国防大臣が訪日し、また、10(同22)年4月には、北澤防衛大臣が訪印して日印防衛相会談を行い、地域の安全保障情勢、

海上安全保障や両国の防衛協力・交流などについて意見交換を行った。09(同21)年11月の会談の際には「共同プレス発表」を発売し、さまざまなレベル・分野で両国の防衛協力・交流を推進することで一致した。

日印両国は、テロ対策、平和維持・平和構築、災害救援などの非伝統的安全保障分野において協力を進めることで一致しており、特に、海上安全保障分野における具体的な協力を強化するとの観点から、09(同21)年10月に第1回日印海上安全保障対話を実施した。また、同年12月には、鳩山内閣総理大臣(当時)が訪印し、シン印首相との間で、日印間の安全保障協力を促進するための「行動計画」を策定した。同計画の中では、海賊対処における協力や、海上における共同訓練の実施など、海上安全保障における協力を実際に推進するための項目が盛り込まれたほか、同計画に基づき、10(同22)年7月には、初の次官級「2+2」対話および第2回次官級防衛政策対話が行われた。

また、11(同23)年5月には、第8回日印安全保障対話および第7回日印防衛当局間(MM)協議が行われ、日印間の安全保障協力をさらに進展させるための方策などにつき、意見交換が行われた。

(図表Ⅲ-3-2-4参照)



火箱陸上幕僚長とシン印陸軍参謀総長



外園航空幕僚長(当時)とナイク印空軍参謀総長

¹ <<http://www.mod.go.jp/j/press/kisha/2009/11/09.html>>参照。

図表Ⅲ-3-2-4 最近の日印防衛協力・交流の主要な実績

首脳、防衛首脳などのハイレベルの会談など	06.12	日印首脳会談（東京） ☆「戦略的グローバル・パートナーシップに向けた共同声明」の発表
	07. 8	日印首脳会談（デリー） ☆「新次元における日印戦略的グローバル・パートナーシップのロードマップに関する共同声明」の発表 日印防衛相会談（デリー） ☆テロとの闘い、地域情勢、二国間の防衛交流などについて意見交換を行い、防衛交流を発展させていくことで一致
	08.10	日印首脳会談（東京） ☆「日印戦略的グローバル・パートナーシップの前進に関する共同声明」の発表 ☆「日印間の安全保障協力に関する共同宣言」の発表 防衛大臣間の会合、防衛政策対話を含む次官間の会合、局長級による防衛当局間協議、二国間および多国間の訓練を含む軍種間の交流などの枠組により、防衛当局間の協力を進めていくことを明記
	09.11	日印防衛相会談（東京） ☆両国の防衛協力・交流および地域の安全保障情勢などについて意見交換（「共同プレス発表」を发出）
	09.12	日印首脳会談（デリー） ☆「日印戦略的グローバル・パートナーシップの新たな段階」と題する共同声明の発表 ☆日印間の安全保障協力を促進するための「行動計画」の策定（次官級2+2の実施、共同訓練の実施などを明記）
	10. 4	日印防衛相会談（デリー） ☆両国の防衛協力・交流、海上安全保障および地域情勢などについて意見交換を行い、海賊対処、国連PKO、人道支援・災害救援などの分野における二国間協力の深化で一致
防衛当局者間の定期協議	07. 4	第1回日印防衛政策対話（次官級）（東京） ☆初の日印の次官級防衛政策対話
	08. 8	印海軍参謀長訪日
	09. 8	印陸軍参謀長訪日（第6回PACC）
	10. 7	第1回日印次官級「2+2」対話（デリー） 第2回日印防衛政策対話（デリー）
	10. 9	印海軍参謀長訪日
	10. 9	印空軍参謀長訪日
部隊間の交流など	11. 2	陸幕長訪印
	09. 2	第6回日印安全保障対話、第5回日印防衛当局間協議
	09.10	第1回日印海上安全保障対話
	10. 4	第7回日印安全保障対話、第6回日印防衛当局間協議
	11. 5	第8回日印安全保障対話、第7回日印防衛当局間協議
	07. 4	日米印3か国共同訓練
	07. 9	多国間海上共同訓練「マラバール07-2」
	09. 4	「マラバール09」

5 日中防衛交流・協力

中国は、近年の目覚ましい経済発展や軍事力の近代化などにより、国際社会における存在感を増している。わが国と中国との間では、軍事力の透明性の問題や東シナ海資源開発などの懸案事項が存在するものの、「戦略的互惠関係」¹を包括的に推進し、友好協力関係をさらに深めることが両国の利益につながる。また、政治情勢の影響をできる限り受けることなく防衛交流を持続的かつ安定的に継続・推進することは、日中間の相互理解と信頼関係を強化し、防衛政策の透明性の向上を図るなどの観点から、アジア太平洋地域の平和と安定にとって必要不可欠である。

日中両国は、これまでさまざまなレベルにおいて信頼関係・相互理解の増進に努めるとともに、「戦略的互惠関係」を包括的に推進するとの考えのもと、協力分野の拡大の機運が高まりつつある。09(平成21)年3月には北京で、同年11月には東京で1年に2度の日中防衛相会談が実施された。11月の会談では、海上における捜索・救難に関する共同訓練の実施、人道支援・災害救援に関する経験の共有および協力、日中防衛当局間の海上連絡メカニズムの早期確立といった、両国間の具体的な協力の実施に向けた検討・意見交換を行うことで一致し、これらの合意事項を含む「共同プレス発表」²を発出するとともに、会談後、初めての共同記者会見も実施した。また、10(同22)年10月11日、ハノイにおける北澤防衛大臣^{りょう・こうれつ}と梁光烈中国国防部長との懇談により、両国が原点に立ち戻って「戦略的互惠関係」を推進していくことが重要であるとの認識で一致した。さらに、11(同23)年6月、シンガポールにおいて開催されたIISSアジア安全保障会議の際に行われた日中防衛相会談では、両国の防衛当局間で冷静に対話を進め、日中防衛交流を安定的に推進することが「戦略的互惠関係」の基盤となり、両国の信頼・友好関係の強化と防衛政策などの透明性の向上につながるとの認識で一致し、引き続き日中防衛交流を発展させることを確認した。

防衛当局者間の定期協議については、11(同23)年1月、約2年ぶりに防衛・外務当局間の第12回日中安全保障対話が開催され、双方は、両国の防衛政策などに関する意見交換を行い、海上における不測事態を防止するための連絡メカニズムの早期構築などに向けて努力することで一致したほか、日中防衛当局間のさまざまなレベル・分野における交流が日中両国の相互理解や信頼強化に重要な役割を果たしているとの認識で一致した。

また、近年の中国海軍による活動の活発化を踏まえれば、日中防衛当局間の海上連絡メカニズムを構築することが急務であり、具体的な協議の実施を中国側に対して働きかけたところ、10(同22)年7月に本件に関する日中防衛当局の第2回実務者協議が行われた。また、11(同23)年6月の日中防衛相会談においては、北澤防衛大臣より、昨今の中国海軍機などによる海自艦隊への近接飛行事案に関し再発防止を要請し、日中双方が可能な限り早期に第3回実務者協議を実施することで一致した。

部隊間交流については、07(同19)年11月から12月にかけて中国海軍駆逐艦「深圳」^{しんせん}が東京に寄港し、08(同20)年6月に護衛艦「さざなみ」が中国広東省・湛江^{たんこう}を訪問したほか、09(同21)年11月に中国練習艦「鄭和」^{ていわ}が江田島・呉を訪問した。同年11月の日中防衛相会談で



IISS アジア安全保障会議の際に行われた日中防衛相会談

1 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s_abe/cn_kr_06/china_kpress.html>参照。

2 <<http://www.mod.go.jp/j/press/kisha/2009/11/27b.html>>参照。

図表Ⅲ-3-2-5 最近の日中防衛交流・協力の主要な実績

首脳、防衛首脳などのハイレベルの会談など	07. 8	日中防衛相会談（東京） ☆日中防衛交流をさらに進展させることが重要との認識で一致 ☆日中の防衛当局間初の共同文書となる「日中防衛当局間共同プレス発表」を发出
	07.12	日中首脳会談（北京） ☆「戦略的互惠関係」の具体化として「交流・相互信頼の促進」を3つの柱の1つとして位置づけ ☆安全保障分野における交流強化（海自艦艇の派遣、自衛隊と人民解放軍の青年幹部の相互訪問）などについて一致
	08. 5	日中首脳会談（東京） ☆防衛大臣などのハイレベル交流の強化、海自艦艇の訪中、防衛当局間の連絡メカニズムの早期設置などで合意
	09. 3	☆「『戦略的互惠関係』の包括的推進に関する日中共同声明」の発表 日中防衛相会談（北京） ☆日中両国の防衛政策、日中防衛交流、地域情勢について協議を行い、各レベル、各分野での交流の推進およびPKO、災害救援、海賊対策で対話と協力を進めることで一致 ☆今後の主要な交流についての10項目の共通認識を含む「共同プレス発表」を发出
	09.11	日中防衛相会談（東京） ☆「共同プレス発表」を发出 ☆防衛大臣の訪中、海上における捜索・救難に関する共同訓練、陸自方面隊と中国人民解放軍大軍区との交流（2010年内に開始）、防衛高級事務レベル協議および幕僚対話、人道支援・災害救援に関する経験の共有および協力に向けた意見交換の実施などで一致
	10.10	日中防衛相懇談（ハノイ（ADMMプラス）） ☆両国が原点に立ち戻って「戦略的互惠関係」を推進していくことが重要であるとの認識で一致 ☆防衛当局間の海上連絡メカニズムの早期確立が必要であるとの認識で一致 ☆日中の防衛当局間で冷静に対話を進め、より一層相互理解を深めることおよび今後とも日中防衛交流を発展させることが重要であるとの認識で一致
	11. 6	日中防衛相会談（シンガポール（第10回シャングリラ会合）） ☆両国の防衛当局間で冷静に対話を進め、日中防衛交流を安定的に推進することが「戦略的互惠関係」の基盤となり、両国の信頼・友好関係の強化と防衛政策などの透明性の向上につながるとの認識で一致 ☆防衛当局間の海上連絡メカニズムの確立に向け、可能な限り早期に第3回実務者協議を実施することで一致
	08. 9	中国空軍司令員訪日
	08.10	中国海軍司令員訪日
	09. 2	中国人民解放軍副総参謀長訪日
09. 7	海幕長訪中	
09.11	空幕長訪中	
10. 2	陸幕長訪中	
防衛当局者間の定期協議	09. 3	第11回日中安全保障対話（外務・防衛次官級協議）
	10. 7	日中防衛当局間の海上連絡メカニズムに関する第2回共同作業グループ協議
	11. 1	第12回日中安全保障対話（防衛・外務次官級協議）
部隊間の交流など	07.11～12	中国艦艇「深圳 ^{しんせん} 」訪日
	08. 6	海自艦艇「さざなみ」訪中
	09.11	中国練習艦「鄭和 ^{ていわ} 」訪日

は、陸自方面隊と中国人民解放軍大軍区との交流などを新たに実施することで合意しており、10（同22）年6月に済南軍区司令官を代表とする代表団が訪日した。これらの取組を通じて、日中両国は、相互の信頼関係を強化し、防衛政策の透明性の向上などに努めている。

このほか、笹川平和財団の主催により、01（同13）年から日中佐官級交流が実施されている。本事業は、防衛分野のみならず、政治、経済、社会、文化、歴史などの多種多様なアプローチを盛り込んだ充実したプログラム

を組み込んでおり、日中防衛当局間の中堅幹部の信頼関係・相互理解の増進のみならず、防衛交流の裾野を広げるといふ大きな役割を果たしている。

今後も、さまざまなレベル・分野において、日中間の信頼関係・相互理解の増進に努めるとともに、非伝統的安全保障分野などにおける具体的な協力を積極的に推進していくことが必要である。

（図表Ⅲ-3-2-5参照）

6 日露防衛交流・協力

ロシアは、欧州、中央アジアおよびアジア太平洋地域の安全保障に大きな影響力を持ち、かつ日本の隣国でもあることから、日露の防衛交流を深め、信頼・協力関係を増進させることはきわめて重要である。防衛省は、さまざまな分野で日露関係が進展する中、99年（平成11）年に作成された日露防衛交流に関する覚書（06（同18）年改定）に沿って、各レベルで着実にロシアとの交流を進めており、外務・防衛当局間による安保協議や、局長・審議官級の防衛当局間協議をはじめ、日露海上事故防止協定に基づく年次会合、さらに、搜索・救難共同訓練などを継続的に行っている。ロシアとの交流は、09（同21）年は、ロシア軍の組織改編の影響もあり、やや低調であったが、10（同22）年は、活発さを取り戻し、ハイレベルでは、6月にゼーリン露空軍司令官の訪日、9月にマカロフ露軍参謀総長の訪日が行われ、実務者レベルでは、7月に安保協議および防衛当局間協議が行われた。また、部隊間レベルでは、7月に海自艦艇の訪露および第11回日露搜索・救難共同訓練が行われ、10月には露海軍艦艇

が訪日した。さらに、11（同23）年6月、IISSアジア安全保障会議に際して、北澤防衛大臣とイワノフ露副首相（前国防大臣）との間で会談が行われ、双方は、さまざまな防衛交流を通じて相互理解および信頼関係の強化を図ることが極めて重要であること、北澤大臣の早期訪露を実現することで一致した。

（図表Ⅲ-3-2-6参照）



折木統合幕僚長とマカロフ露軍参謀総長

図表Ⅲ-3-2-6 最近の日露防衛交流・協力の主要な実績

首脳、防衛 首脳などの ハイレベル の会談など	06. 1	日露防衛相会談（モスクワ） ☆日露防衛交流に関する覚書の改定
	06. 5 07. 6 08. 3 08. 4 10. 6 10. 9 11. 6	陸幕長訪露 空幕長訪露 露地上軍総司令官訪日 統幕長訪露 露空軍総司令官訪日 露軍参謀総長訪日 防衛大臣と露副首相の会談（シンガポール（第10回シャングリラ会合）） ☆様々な防衛交流を通じて相互理解及び信頼関係の強化を図ることが極めて重要であることで一致
防衛当局者 間の定期協 議	06. 4 07.12 08. 4 08. 5 10. 7 10. 7	第7回日露防衛当局間協議 第8回日露防衛当局間協議 第4回日露安保協議 第9回日露防衛当局間協議 第5回日露安保協議 第10回日露防衛当局間協議
実務者交流	08. 7 09.10	露国防省医務総局長訪日 大臣官房衛生監訪露
部隊間の交 流など	06.10 06.10 07. 8 07.12 08. 9 08. 9 08.11 08.11 09. 3 09. 9～10 10. 7 10.10	北方総監訪露 露海軍艦艇の訪日（第8回日露捜索・救難共同訓練） 海自艦艇の訪露（第9回日露捜索・救難共同訓練） 露第11航空・防空軍司令官訪日 露地上軍演習への陸自オブザーバー派遣 露海軍艦艇の訪日（第10回日露捜索・救難共同訓練） 露極東軍管区司令官訪日 北部航空方面隊司令官訪露 北方総監訪露 陸自演習への露地上軍オブザーバー受入れ 海自艦艇の訪露（第11回日露捜索・救難共同訓練） 露海軍艦艇の訪日

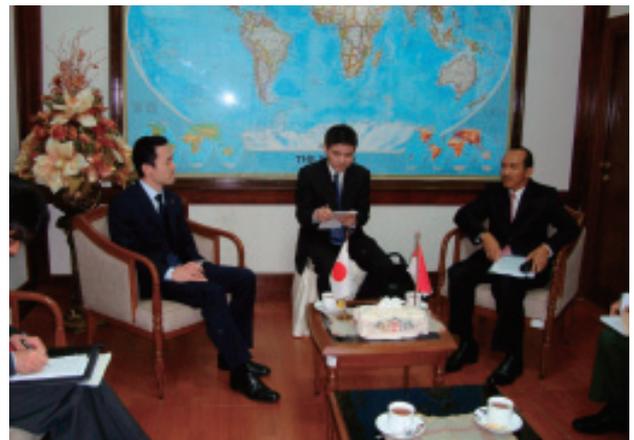
7 東南アジア諸国との防衛協力・交流

東南アジア諸国は、わが国と中東地域や欧州地域とを結ぶ海上交通の要衝を占める地域に位置するとともに、わが国と密接な経済関係を有している伝統的なパートナーである。東南アジア諸国との安全保障上の諸問題に対する信頼・協力関係を増進させることは、わが国と東南アジア諸国の双方にとって有意義である。

特に、シンガポール、ベトナム、タイ、フィリピン、マレーシア、インドネシアとは閣僚級・次官級の会談を定期的実施し、各国との間の防衛協力・交流のあり方、地域における安全保障協力の枠組に関する意見交換を活発に行っている。また、10（同22）年5月には、榛葉防衛副大臣（当時）がラオス、カンボジアおよび東ティモールを訪問し、両国間の防衛協力・交流の強化を図るとともに、非伝統的安全保障分野における協力や能力構築支援などの具体的協力について意見交換を行った。また、同年10月11日には、拡大ASEAN国防相会議（ADMMプラス）に際して、北澤防衛大臣は、シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナムなどの東南アジア諸国の国防大臣と二国間会談を行い、地域情勢や地域の安全保障協力などについて意見交換を行った。さらに、11（同23）年1月には、松本防衛大臣政務官がフィリピン、タイ、ネパール、マレーシア、インドネシアを訪問し、各国国防関係者と地域の安全保障に関するさまざまな意見交換を行ったほか、同月、中江事務次官がタイおよびシンガポールを訪問し、両国において国防大臣への表敬および国防次官との会談を行い、両国との防衛協力・交流の更なる進展に向けた取組について意見交換を行った。

このようなハイレベルの交流に加え、防衛当局者間の協議、部隊間交流や留学生の派遣・受け入れなども積極的に行っているほか、同年4月、ラオスとの防衛協力・交流を強化するため、在ベトナム防衛駐在官を在カンボジア防衛駐在官に加え、在ラオス防衛駐在官に併任させるなど、東南アジアの諸国との協力・交流は着実に進展している。さらに、東京ディフェンスフォーラム、日・ASEAN諸国防衛当局次官級会合の主催やADMMプラスの防衛医学EWGの共同議長への就任など、防衛省としても、地域における安全保障対話と具体的な協力の進展に向けた貢献を積極的に行い、地域の安全保障環境の安定化に主体的役割を果たしている。

（図表Ⅲ-3-2-7参照）



松本防衛大臣政務官とエリス尼国防次官との意見交換

図表Ⅲ-3-2-7 最近の東南アジア諸国との防衛協力・交流の主要な実績

首脳、防衛首脳などのハイレベルの会談など	10. 5	防衛副大臣カンボジア訪問
	10.10	防衛副大臣が会談（ハノイ（ADMMプラス）） ☆日・カンボジア防衛協力および国際協力活動について意見交換。海上安全保障や能力構築支援などの分野で日カンボジア防衛協力を深めていくことで一致
	08. 2	インドネシア海軍参謀長訪日
	10. 1	中江防衛事務次官インドネシア訪問
	10. 6	折木統幕長インドネシア訪問
	10.10	日・インドネシア防衛相会談（ハノイ（ADMMプラス）） ☆海洋をめぐる安全保障の問題や日・インドネシア防衛交流の促進について意見交換
	11. 1	松本防衛大臣政務官インドネシア訪問
	11. 6	日・インドネシア防衛相会談（シンガポール（第10回シャングリラ会合）） ☆日・インドネシア防衛協力、地域情勢などについて意見交換。災害救援や海洋安全保障の分野において両国で緊密に協力し、日インドネシア防衛協力を深化させていくことで一致
	10. 5	防衛副大臣ラオス訪問
	09. 8	マレーシア海軍司令官訪日
	10. 1	中江事務次官マレーシア訪問
	11. 1	松本防衛大臣政務官マレーシア訪問
	11. 1	松本防衛大臣政務官ネパール訪問
	09. 5	防衛大臣政務官フィリピン訪問
	10.10	防衛副大臣が会談（ハノイ（ADMMプラス）） ☆地域情勢およびわが国周辺の安全保障環境について意見交換。日・フィリピン間防衛当局間で協力を深めていくことで一致
11. 1	松本防衛大臣政務官フィリピン訪問	
09. 2	日・シンガポール防衛相会談（第45回ミュンヘン安全保障会議） ☆東南アジア地域における両国の役割について意見を交換し、今後とも日本が積極的に関与していくことで一致	
09. 5	日・シンガポール防衛相会談（シンガポール（第8回シャングリラ会合）） ☆更なる発展のため、防衛交流覚書の策定作業を開始することで一致	
09. 9	シンガポール国軍司令官訪日	
09.11	日・シンガポール次官会談（東京）	
09.12	日・シンガポール防衛相会談（東京） ☆両国の防衛政策、防衛交流および地域の安全保障情勢について意見交換 ☆防衛交流覚書に署名	
10. 2	海幕長シンガポール訪問	
10. 6	日・シンガポール防衛相会談（シンガポール（第9回シャングリラ会合）） ☆昨年度結ばれた防衛交流覚書に沿って防衛協力・交流を進めることで一致	
10.10	日・シンガポール防衛相会談（ハノイ（ADMMプラス）） ☆シンガポール側から、ADMMプラスの設立経緯などについて説明があり、日本を含む「プラス国」の参加を歓迎する発言があった。	
11. 1	松本防衛大臣政務官シンガポール訪問	
11. 2	陸幕長シンガポール訪問	
11. 6	日・シンガポール防衛相会談（シンガポール（第10回シャングリラ会合）） ☆東日本大震災への対応の教訓反省について、シンガポールから強い関心が示され、こうした情報について地域各国と共有し、地域の災害対処能力を向上させていくべきであるとの認識で一致	
09.12	防衛副大臣タイ訪問	
10. 8	タイ海軍司令官訪日	
10.10	日・タイ防衛相会談（ハノイ（ADMMプラス）） ☆日・タイ防衛協力、ソマリア沖海賊対処活動における支援・協力などについて意見交換	
11. 1	松本防衛大臣政務官タイ訪問	
11. 1	中江防衛事務次官タイ訪問	

防衛首脳などのハイレベルの会談など	09. 2 09. 3	東ティモール国防担当国務長官訪日 日・東ティモール防衛相会談（東京） ☆平成22年度以降の防衛大学校への東ティモールからの留学生受入れ、東京ディフェンス・フォーラムなどの国際会議を通じた防衛交流の促進などについて意見交換
	10. 5 10.10	防衛副大臣東ティモール訪問 国防担当国務長官訪日
	09. 5 09. 5 10. 1 10. 2 10.10	日・ベトナム防衛相会談（シンガポール（第8回シャングリラ会合）） ☆防衛交流覚書の策定作業の開始、相互訪問や教育分野などの交流の強化で一致 防衛大臣政務官ベトナム訪問 中江防衛事務次官ベトナム訪問 海幕長ベトナム訪問 日・ベトナム防衛相会談（ハノイ（ADMMプラス）） ☆日・ベトナム防衛協力及び地域情勢について意見交換。相互訪問等を通じ、ハイレベルを含むあらゆるレベルの防衛交流を進展させることが重要であるとの認識で一致
	11. 6	日・ベトナム防衛相会談（シンガポール（第10回シャングリラ会合）） ☆日・ベトナム防衛協力、南シナ海を含む地域情勢について、意見交換。双方は、ティン大臣の本年中の早期訪日を実現し、両国の防衛協力を深化させていくことで一致
防衛当局者間の定期協議	09. 8 10. 3	第6回PACC（訪日者は以下のとおり） バングラディシュ陸軍参謀総長、カンボジア国軍副司令官兼陸軍参謀総長、インドネシア陸軍参謀総長、マレーシア陸軍参謀総長、フィリピン陸軍司令官、シンガポール陸軍司令官、スリランカ陸軍司令官、タイ陸軍司令官、ベトナム人民軍総参謀長 第2回日・ASEAN諸国防衛当局次官級会合（東京（次官会談は以下のとおり）） ブルネイ国防次官、カンボジア国防長官、インドネシア国防副次官、ラオス国防次官、マレーシア国防次官、フィリピン国防次官、ベトナム国防次官
	10. 6	第1回日カンボジア外務・防衛当局間協議、第1回日カンボジア防衛当局間協議
	10. 9	第3回日インドネシア防衛当局間協議
	10. 8	第4回日フィリピン外務・防衛当局間協議、第4回日フィリピン防衛当局間協議
	09. 9 10.10	第10回日シンガポール防衛当局間協議 第11回日シンガポール防衛当局間協議
	09. 9 10. 9	第8回日タイ外務・防衛当局間協議、第8回日タイ防衛当局間協議 第9回日タイ外務・防衛当局間協議、第9回日タイ防衛当局間協議
	10. 4	第6回日ベトナム外務・防衛当局間協議、第6回日ベトナム防衛当局間協議
部隊間の交流など	09. 5 10. 2 10.10 11. 2 11. 3	米・フィリピン主催ARF災害救援実動演習の参加（フィリピン） 米・タイ主催コブラ・ゴールド10への参加（タイ） 日星部隊間交流（シンガポール） 米・タイ主催コブラ・ゴールド11への参加（タイ） 日・インドネシア主催第2回ARF災害救援実動演習（ARF-DiREx2011）への参加（インドネシア）

COLUMN

日インドネシア関係の進展

インドネシア大使館付国防武官 海軍大佐 ディキ・アトリアナ

インドネシアと日本は、太平洋の周縁に位置する海洋国家として共通性を有しておりますが、両国の関係は近年より緊密になってきており、価値観と利益を共有するパートナーです。

教育分野におきましては1998年に防衛大学の本科と研究科でインドネシア留学生の受け入れが始まり、新たな交流関係がスタートをいたしました。2010年度までに本科に19名、研究科に9名の卒業生を輩出しており、現在では、本科11名、研究科2名が在学しています。

本年1月のプルノモ・インドネシア国防大臣の訪日は、1988年のムルダニ国防治安大臣以来22年ぶりのことであり、日インドネシア防衛協力・交流強化の観点から非常に意義深いものとなりました。

また、プルノモ国防大臣より防衛省に対し、日本の教育・訓練を受けたインドネシア独立時の国民的英雄であるスディルマン将軍の銅像が寄贈されました。防衛相会談に先立ち、銅像の徐幕式を行いました。これは、日インドネシア防衛協力・交流の進展を象徴するものです。

プルノモ大臣の訪日およびスディルマン将軍の銅像寄贈を契機として、日本とインドネシアは、今後は、人的な交流にとどまらず、人道支援・災害救援や海賊対処などの分野において、より実質的な協力を積み重ねていくことが重要であり、両国防衛関係者は更なる努力を重ねていかなければなりません。



スディルマン将軍の銅像の除幕式
(写真左：プルノモ・インドネシア国防大臣、右：北澤防衛大臣)



除幕式に整列するディキ・アトリアナ海軍大佐（手前）

8 日英防衛協力・交流

英国は、欧州のみならず世界に影響力を持つ大国であるとともに、わが国と歴史的にも深い関係があり、安全保障面でも米国の重要な同盟国として戦略的利益を共有している。このような観点から、国際平和協力活動、テロ対策、海賊対策などのグローバルな課題における協力や地域情勢などに関する情報交換を通じ、日英間で協力を深めることは、わが国にとって非常に重要である。

英国との間では、07（平成19）年1月、日英両首脳の間で、安全保障分野での協力を含む日英共同声明が発表された。また、04（同16）年1月、両国防衛相の間でも、両国の各分野での防衛協力を発展させていくための「防衛協力に関する覚書」が署名され、あらゆるレベル、さ

まざまな分野で協力と交流が行われている。10（同22）年9月には、楠田防衛大臣政務官（当時）が英国を訪問し、フォックス国防大臣およびアスター国防政務官との会談を行い、国際平和協力活動、わが国周辺の安全保障環境、海上交通路の安全確保などに関する意見交換を行った。

さらに、11（同23）年6月にはIISSアジア安全保障会議に際して、中江防衛事務次官がブレナン英国国防次官との間で13年ぶりに次官級の会談を行い、東日本大震災への対応や、今後の日英防衛協力などに関する意見交換を行った。

（図表Ⅲ-3-2-8参照）

図表Ⅲ-3-2-8 最近の日英防衛協力・交流の主要な実績

首脳、防衛首脳などのハイレベルの会談など	04. 1	日英防衛相会談（ロンドン） ☆防衛協力に関する覚書の署名
	06. 1	日英防衛相会談（ロンドン） ☆日英のハイレベル・実務レベルでの防衛交流が進んでいることを確認
	09. 2	日英防衛相会談（第45回ミュンヘン安全保障会議） ☆防衛政策について意見交換
	09. 5	防衛大臣と英国国防政務官の意見交換（シンガポール（第8回シャングリラ会合）） ☆ソマリア沖・アデン湾における海賊対策、わが国周辺の安全保障環境などについて意見交換
	10. 6	防衛大臣と英国国防大臣の意見交換（シンガポール（第9回シャングリラ会合）） ☆国際平和協力活動、わが国周辺の安全保障環境、海上交通路の安全確保などについて意見交換
	10. 9	楠田防衛大臣政務官英国訪問
	10.11	エルウッド国防大臣議会秘書官訪日
	05. 3	陸幕長訪英
	05. 9	陸軍参謀長訪日
	05. 6	海幕長訪英
	07. 4	空幕長訪英
08. 1	第1海軍卿訪日	
09. 5	海幕長訪英	
10. 5	空幕長訪英	
11. 3	第1海軍卿訪日	
11. 6	日英防衛次官会談（シンガポール（第10回シャングリラ会合）） ☆東日本大震災の対応や今後の日英防衛協力などについて意見交換	
防衛当局者間の定期協議	09.11 11. 2	第10回日英外務・防衛当局間協議、第6回日英防衛当局間協議 第11回日英外務・防衛当局間協議、第7回日英防衛当局間協議
部隊間の交流など	09. 6 09. 7 10. 2	日英部隊間交流（英国）（陸） 日英部隊間交流（日本）（陸） 研究開発実務者交流（日本）（陸）



松本防衛大臣政務官とラフ英国防政務官



杉本海上幕僚長とスタンホープ英国第1海軍卿

9 欧州諸国との防衛協力・交流

欧州は、わが国と民主主義、法の支配、人権の尊重、資本主義経済といった基本的な価値観を共有し、また、テロ対策や海賊対処などの非伝統的安全保障分野や国際平和協力活動を中心に、グローバルな安全保障上の共通課題に取り組むための中核を担っている。そのため、欧州諸国と防衛協力・交流を進展させることは、わが国がこうしたグローバルな課題に積極的に関与することについての基盤を提供するものであり、わが国と欧州の双方にとって重要である。

このような認識のもと、楠田防衛大臣政務官（当時）が10（平成22）年5月にベルギーおよびフランスを、同年9月にはドイツを訪問し、北大西洋条約機構（NATO）や欧州連合（EU）の関係者やフランスおよびドイツ両国の国防省関係者と意見交換を行った。また、同政務官がEUおよびNATOによる海賊対処作戦の司令部を訪問

するなど、わが国は、多国間安全保障対話の枠組も活用しつつ、フランス、ドイツ、イタリア、NATOなどの欧州諸国・機関との協力関係を深めている。

（図表Ⅲ-3-2-9参照）



小川防衛副大臣と
シュヴァイスグート駐日欧州連合代表部大使

図表Ⅲ-3-2-9 最近の欧州およびその他の諸国との防衛協力・交流の主要な実績

防衛首脳などのハイレベルの会談など	10. 5	空幕長ベルギー訪問
	10. 5	防衛大臣政務官ベルギー（NATO司令部）訪問
	09. 5	海幕長フランス訪問
	09.12	フランス統合参謀総長訪日
	10. 5	防衛大臣政務官フランス訪問
	10. 5	空幕長フランス訪問
	10. 9	フランス海軍参謀長訪日
	09. 2	日ドイツ防衛相会談（第45回ミュンヘン安全保障会議） ☆海賊対策について意見交換
	09. 3	ドイツ陸軍総監訪日
	10. 9	防衛大臣政務官ドイツ訪問
	10. 2	イタリア防衛副大臣訪日
	10. 4	ルーマニア国軍参謀総長訪日
	10.10	グルジア国防次官訪日
10. 6	トルコ海軍司令官訪日	
10. 5	防衛大臣政務官シリア・イスラエル訪問	
09. 6	カナダ国防次官訪日	
10. 6	海幕長カナダ訪問	
10.11	カナダ航空参謀長訪日	
11. 6	カナダ海軍参謀長訪日	
09.12	防衛副大臣ジブチ共和国・バーレーン王国訪問	
10.12	防衛大臣政務官ジブチ共和国・バーレーン王国訪問	
10.10	日・ニュージーランド防衛相会談	
11. 1	統幕長ニュージーランド訪問	
09. 8	第6回PACC（訪日者は以下のとおり） カナダ地上軍参謀長、チリ陸軍総司令官、ニュージーランド陸軍司令官	
防衛当局者間の定期協議	09. 5	第7回日カナダ防衛当局間協議
	10. 3	第6回日カナダ外務・防衛当局間協議
	09. 6	第11回日フランス外務・防衛当局間協議、第12回日フランス防衛当局間協議
	10.10	第12回日フランス外務・防衛当局間協議、第13回日フランス防衛当局間協議
	10. 6	第12回日ドイツ外務・防衛当局間協議
	10.10	第10回日ドイツ防衛当局間協議
	09.10	第5回日ニュージーランド防衛当局間協議
10.12	第6回日ニュージーランド防衛当局間協議	
10. 5	第4回日バキスタン安全保障対話、第5回日バキスタン防衛当局間協議	
09. 5	第9回日NATO高級事務レベル協議	
10. 7	第10回日NATO高級事務レベル協議	